

熊本を福祉のモデル県に 思いやりのあるやさしい福祉社会を

「福祉」と聞くと「私には関係ない」「何もしてあげられない」と尻ごみしていませんか。福祉とは、一人一人の心の中にあるもの、一人一人の幸せのことです。

熊本県では、本年度から公共施設にエレベーターやスロープを取りつけたり、歩道の段差を解消するなど、「高齢者・身体障害者等にやさしいまちづくり事業」に取り組んでいます。そこで今回は、県内において、それぞれの立場で福祉に関わる三人の方にお集まりいただき、知事を囲んで「やさしいまちづくり」を考え、話しあっていただきました。



福祉との関わりを中心に自己紹介をお願いします。

田上 私は二年ほど前に脊髄に腫瘍ができて、その手術をした後に車椅子生活になりました。それからリハビリ等を終えまして、昨年の九月から本年四月まで、アメリカのカリフォルニア州を中心に、障害者の生活や活動、システムを勉強するために行ってまいりました。まだ帰ってきたばかりでこれから何をしようかというところなんです。幸い若い熊本の人たちが頑張っていますので、仲間に入れていただくようになるかと思っています。

成瀬 西合志町社会福祉協議会の成瀬です。私は、弟が重度の身体障害者で、その弟と一緒に育っているうちに、自然に自分が福祉の仕事をするんだと思って

いたようです。そういう気持ちで入ったんですが、大学の実習の時に、両手両足ない方と巡り会いました。その人が私に「私も生きたい」と。たったそれだけだったんですが、その言葉を聞き、今までの自分を反省し、真剣にこの仕事をやっていこうという気持ちになりました。大学卒業後、精神薄弱者の更生施設に二年ほど勤めていたんですが、もっといろんな福祉に携わってみたい、オールマイティな福祉マンになりたい、ということとで社会福祉協議会に五十九年度からお世話になっています。今、七年目ですがいろいろな人と関わり合いがある仕事ですし、大変楽しくやらせていただいております。私は家庭の主婦だったんですが、子供が大きくなり「もう手離していいな。

何かしたいなあ」と思いました。その時ちょうど荒尾の広報誌で、ボランティア育成の公募がありましたので、その講習を受けました。実習では、特別養護老人ホームの白寿園や身体障害者施設などいろいろな勉強させていただきました。卒業後、実際に何かできることはないかと、十人ぐらいのグループで白寿園に申し込みまして、月一回ボランティア活動に行きました。おむつを縫ったり、お年寄りとお話したり。そうしているうちに、お年寄りが好きで好きでボランティアを卒業し、白寿園に勤めるようになって十年になります。

知事 ありがとうございます。田上さんはアメリカに行かれてどうでしたか。



成瀬 裕二氏
・西合志町在住。32歳。
・西合志町社会福祉協議会職員。



田上 みどり氏
・熊本市在住。32歳。
・身障者若手リーダー。8カ月の米国留学を終え帰郷



西村 洋子氏
・荒尾市在住。53歳。
・特別養護老人ホーム「白寿園」の寮母長。

